

話す楽しさを味わうスピーチ活動

—— 構成的グループ・エンカウンターへの応用 ——

境 智 美

1. はじめに

日本語学習者の日本語能力は、一般的に日本語能力試験 (the Japanese-Language Proficiency Test : 以下JLPT) によって判断される。JLPTは「文字語彙・文法・読解・聴解」の4項目で評価されるため、話す力が重視されているとは言えない。そのため、学習者に文法中心の言語能力観が少なからずある。初級、中級と文法が難しくなるにつれ、学習者は自分の日本語能力に自信をなくし、本来楽しくあるべき会話の授業においても、話すことへの不安や抵抗感を示すといった状況が見られる。また、人間関係が希薄になってきた現代社会では、日本語を話すことには問題のない日本人学生にも話すことへの不安や抵抗感は見られ、話す力が十分に育っているかと言われれば疑問である。話す楽しさを味わわせ、話す力を育てていくことは日本語学習者のみならず、日本語母語話者にも必要なことであると考えられる。

言語教育で広がりを見せるコミュニカティブ・アプローチ (Communicative Approach : 以下CA) は、コミュニケーションを重視した教授法である。このCAの一方法論として、構成的グループ・エンカウンター (Structured Group Encounter : 以下SGE) を取り入れることで、上記の問題を多少なりとも改善し、話す力を伸ばしていくことができないかというのが、本実践の問題意識である。

2. 研究の目的

本稿は、自己理解、他者理解を前提とした相互理解のプロセスを重視するSGEの理念を取り入れたスピーチ活動を実施し、話すことに関する効果と問題点を明らかにするものである。学習者が話す楽しさを味わいながら、話す力を伸ばすことができるようになることを期待する。

3. 先行研究

3-1. SGEについて

SGEは、1970年代後半から國分康孝・國分久子らによって提唱・実践され始めたものである。國分 (1981:3) は、エンカウンターとは「心とこころのふれあい」「ホンネとホンネの交流」であるとしている。

また、林 (2011:2:3) は「SGEは、リーダーとともにエクササイズ (課題) を行う集団的なカウンセリング技法の一つである。エクササイズの時間・人数・内容を構成する点が特徴で、参加体験型の学習方法の一つと位置づけられる」と述べている。SGEは課題によってコミュニケーションを行う参加体験型の学習方法であるという点でCAと共通しており、タスク (task)

中心の活動として応用できると考えられる。

岡崎ら(1990:216)は、日本語教育におけるCAを論ずる中で、言語学習にとって特に重要な要素である学習動機の基盤は、学習者の全人格的なものに求められるとし、その一つとして「人間本来の願望であると考えられる、社会的存在としての自己を表現し同時に他者を理解することに対する欲求が言語活動の場においても満たされる、ことからくる動機がある」と述べている。感情交流の場となるSGEエクササイズは、言語活動の動機付けとして有効に働くと考えられる。

本稿ではSGEの理念に基づいているということを示すためにSGE用語を用いるが、「エクササイズ」は日本語授業における「タスク」、「参加者」は「学習者」、「リーダー」は「教師」に対応している。

3-2. スピーチについて

木田ら(2007:39,53)は、スピーチを「話し手が1人で多数の人の前で、まとまった話をする」と定義し、スピーチの目的や方法について論じている。スピーチ活動を通して育成できるコミュニケーション能力としては、「一定のまとまりをもった発話を開始、終了させたり、つなげ、展開させていく能力(談話能力)やフィラーを使って時間をかせぐことができる能力(ストラテジー能力)」があるとしている。

黄(2012a, 2012b)は、話すことに関するSGEの実践研究の中で、主に制限時間内に話す力や要約力の向上を目指してスピーチ活動を行い、授業の実態を明らかにしている。具体的には「先週の出来事」というテーマでの2分間スピーチである。分析によりエクササイズが学習の動機付けに効果があるという結果を得ているが、その要因についてはあまり触れられていない。また、「話題がない」「思いつけない」という参加者の記述が多数あったことから、「話材を常に日常生活の中から拾い上げていく努力」(2012a:48)の必要性を述べている。

4. エクササイズの実践と分析方法

本実践では、自己の内面を見つめ、自己理解、他者理解が進むものという視点から、森泉(2001:80-81)がSGEエクササイズとして開発した「忘れられない経験」を選定し、アレンジして用いた。具体的には木田ら(2007)の示している談話能力を伸ばすことに重点を置き、スピーチ後には質問・感想の時間を設けた。スピーチの準備には、留学生の日本語能力を考慮してワークシートを用いた。また、スピーチの一般的な形式は「1対多数」であるが、森泉(2001)、黄(2012a, 2012b)と同様に、ペアでスピーチの練習をするという形式をとった。参加者の心理的負担を軽減し、人数の多いクラスでも簡単に短時間で実施できるという理由からである。

エクササイズの分析にあたっては、黄(2012a)の研究手法を参考にしながら行った。エクササイズ終了時に、参加者が記入する振り返りシートには、量的データとしての各設問に「よくあてはまる(5点)～「まったくあてはまらない(1点)」の5件法で答えるものと、質的データとしての自由記述欄を設けた。各設問の内容は次頁の9項目である。項目①②③⑨は参加者のモチベーションなどの心理面に関わる評価であり、項目④⑤⑥⑦⑧は話す力に関する評

価である。()内は各設問を簡略化した表示である。

- ①楽しんでエクササイズに参加できた (楽しい)
- ②積極的に話すことができた (積極的)
- ③自信をもって話すことができた (自信)
- ④相手を意識しながら、伝えたいことを伝えることができた (伝える)
- ⑤相手の話に適切な受け答えができた (受け答え)
- ⑥筋道を立てて話すことができた (筋道)
- ⑦状況に応じて臨機応変に話すことができた (臨機応変)
- ⑧自分なりに工夫して話すことができた (工夫)
- ⑨今日のエクササイズは自分の話す力を伸ばすために役立った (役立つ)

以上の各項目に対する参加者の評価を、グレード・ポイント・アベレージ (Grade Point Average) 式に算出した。その際、小数点第3位を四捨五入した。また、自由記述に関しては、質的研究の一つである戈木 (2008) の「グラウンデッド・セオリー・アプローチ」(grounded theory approach: 以下GTA) を応用して分析を行った。

本稿では参加者からの記述データをほぼ一文ずつに切片化し、所属、属性および内容を簡潔に表すラベルをつけ、概念ごとにまとめてカテゴリー化を行った。さらに、カテゴリー同士の関係をとらえた概念図を作成し、参加者の行動や意識の関連の分析を試みた。

5. 実施内容

テーマ: スピーチ「忘れられない経験」

実施日時: 2012年6月19日 (火) 3・4時限 日本語論演習 (大学院生対象)

2012年6月26日 (火) 5・6時限 日本語学特殊講義 (学部生対象)

実施対象: 参加者合計32名 国別内訳: 日本人16名、留学生16名 (中国8名、台湾2名、韓国5名、アメリカ1名) *留学生の日本語能力は日本語能力試験N1、N2合格レベル

ねらい: ①自分を表現することに慣れる。

②時間内に自分の伝えたいことを伝えることができる。

③筋道を立てて話すことができる。

実施手順: (所要時間約40分)

①ペア (二人一組) になって座る。

②エクササイズのねらいや手順について説明する。(5分)

③過去の「忘れられない経験」を思い出し、ワークシート (別添資料) に記入する。
(5分)

④ペアの一方が「忘れられない経験」を話す。(3分)

⑤聞き手は質問や感想を述べる。(1分)

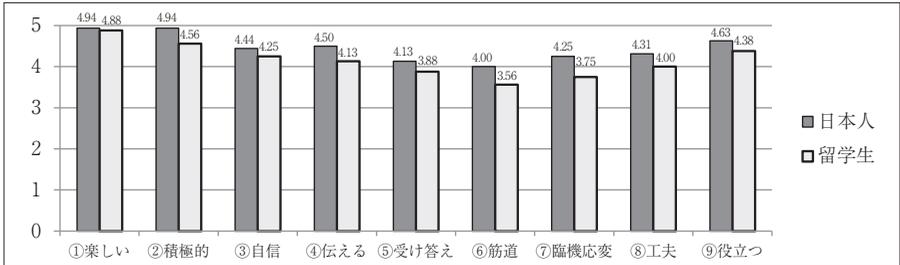
⑥同様に役割を交替して④⑤を行う。(4分)

⑦ペアで気づいたこと、感じたことを話し合う。(シェアリング) (3分)

⑧全体へシェアリングの内容を発表した後、振り返りシートに記入する。(15分)

6. 参加者の5件法による評価の分析

参加者の量的評価の結果を日本人と留学生とに分け、以下の<図1>に示す。



<図1>エクササイズ「スピーチ」に対する参加者の評価

<図1>に示した通り、日本人、留学生ともに上位3項目は、①「楽しい」②「積極的」⑨「役立つ」の順となった。①②の数値からみれば、参加者は楽しんでエクササイズに参加し、話すことへの不安や抵抗感は少なかったと思われる。また、自分の話す力を伸ばすために役立つと評価していることから、本エクササイズを日本語の授業へ取り入れる価値はあると考えられる。

本エクササイズは、3分間という時間制限の中で「忘れられない経験」を伝えるというものであったが、ねらいの1つである「時間内に自分の伝えたいことを伝えることができる」について、④「伝える」は日本人で4.50ポイント、留学生で4.13ポイントとなり、いずれも4ポイントを上回っていた。「忘れられない経験」というのは、それぞれの心の中に印象深く残っているものであり、話しやすい内容であったと考えられる。また、エクササイズ開始前にねらいを確認しているため、時間を意識しながらできたと思われる。

しかし、もう1つのねらいであった⑥「筋道」は日本人で4.00ポイント、留学生で3.56ポイントとなり、いずれも最下位項目となった。黄(2012a:30)は、制限時間のあるスピーチでは、小論文と違って話の前後を見比べる余裕がないため、訓練をしないと時間配分や筋道を立てて話すことは難しいとしている。スピーチの前に5分間ワークシートに整理する時間をとったが、これをしなければ「筋道」に対する評価はさらに低くなったと考えられる。日本人、留学生ともに、筋道を立てて話すことは難しく、かなり練習が必要であることが分かった。

7. 参加者の自由記述の分析

振り返りシートの自由記述の内容を、GTAを応用してカテゴリー化し、分類したものを<表1>から<表7>に示した。表中の参加者の所属と属性は、次頁に示す略称を用いた。番号はデータ入力の順番を示し、人物を特定するものではない。同一人物の記述を分けて入力する場合は()内に連番で示し、一文しか記入していない場合でも01(1)のように示した。また、データは一文を基本単位とするが、一文で内容が分かりにくい場合は複数の文を合わせた。

[所属の略称]

日文：人文学部日本語学・日本文学コース／英文：人文学部英語学・英米文学コース
 言情：人文学部言語情報学コース／欧文：人文学部ヨーロッパ言語・文学コース
 社会：人文学部社会学コース／人研：人文科学研究科／東研：東アジア研究科
 研究：外国人研究生／交換：特別聴講生

[属性の略称]

中：中国／台：台湾／韓：韓国／米：アメリカ／日：日本
 M1：大学院修士1年／M2：大学院修士2年／D1：大学院博士1年

7-1. コミュニケーション活動について

参加者のコミュニケーション活動に関する自由記述データを、以下の〈表1〉「テーマ・筋道」〈表2〉「伝える」〈表3〉「興味」の各カテゴリーにまとめた。表の右端の（n=○）は切片数を表す。また、データ内の誤用については（ ）内に訂正して示した。

〈表1〉「テーマ・筋道」カテゴリー

(n=10)

番号	データ	所属	属性	ラベル
24(3)	「自分の忘れられない経験」は思い出として明確に残っているため、話しやすいテーマだったと思います。	日文 3年	女(日) 20代	話しやすい テーマ
14(1)	「忘れられない」ということはけっこうおもいから、話を考えるのはちょっとむずかしいと思う。	交換	男(米) 20代	テーマの難し さ
14(2)	そして、話す前、「この話はおもしろいかどうか」や「あいては気になるかな」のようなことをよくかんがえました。	交換	男(米) 20代	選択の視点
28(2)	その中で選んだのは、楽しかったり悲しかったりだけのことでなく、努力したり、考えたりして成長できた経験だった。	社会 2年	女(日) 20代	選択の視点
08(3)	また、忘れられない経験を考えるのに時間がかかってしまって困りました。	交換	男(韓) 20代	時間がかかっ た
28(1)	忘れられない出来事について、自分の中でいろいろ頭に浮かんできたので、選ぶのが大変だった。	社会 2年	女(日) 20代	選択の難しさ
05(2)	また、スピーチで一番難しいことは筋道を立てて話すことです。この方面で工夫して話すと、相手が分かりやすいと思います。	研究	女(中) 20代	筋道の必要性
21(1)	今回のエクササイズでは、話す前にワークシートに内容を整理して記入する時間があったので、実際に話す時には、順序立てて話すことができたのではないかと思います。	日文 3年	女(日) 20代	順序立てて話 せた
26(2)	また、今日は1人3分で自分の忘れられない経験を話さなければならなかったのですが、いつもと違い、話をまとめて伝えやすかったり、きちんとオチをつけなくては上手く伝わりにくいと思った。	社会 2年	女(日) 20代	話し方の工夫

(以下1件省略)

「テーマ・筋道」に関する記述は10件得られた。24(3)は、「忘れられない経験」は記憶に明確に残っているため、話しやすいテーマだったと述べているのに対し、14(1)が述べているのは、忘れられないほど人生で重要な経験をどう伝えるかは難しいということであろう。経験に関する具体的な事実は話しやすい。しかし、その経験から相手に何を伝えようとしているのか

を明確しておかなければ筋道を立てて話すことは難しい。

関連する記述として14(2)、28(2)は、話題選択の視点について述べている。相手に伝えたいもの、さらに相手に興味があるものを熟考しながら話題を選択したことが分かる。このような態度は相手や場面によって話題を選択するという社会言語能力に関わってくる。08(3)、28(1)は「忘れられない経験」を考えたり、様々な経験の中から一つを選択することの難しさを述べている。話題の選択はスピーチの重要な要素であり、参加者にとって時間がかかっていることが分かった。

また、05(2)は筋道を立てて話すことは難しいが、相手に分かりやすく伝えるためには必要なことだと気づいている。黄(2012a:48)は、よいスピーチをするポイントの一つとして「何を伝えようとするのか、自分から確認し、意識する」をあげている。この意識が筋道の工夫につながると考えられる。21(1)はワークシートに整理することが筋道を立てて話すことに役立ったとしている。26(2)は、時間制限があることによって、話す内容、順序、まとめ等を考える必要性を感じている。相手意識や時間意識が話し方の工夫を促していることが分かった。

<表2> 「伝える」 カテゴリー

(n=6)

番号	データ	所属	属性	ラベル
20(1)	今日のエクササイズでは、3分という限られた時間の中でしたが、少しだけ時間を過ぎてしまいましたが、きちんとまとめて伝えることができたと思います。	日文 3年	男(日) 20代	伝えられた
18(2)	でも、書ききれれば、意外と流れはつくれたので、しっかり話せた。	日文 3年	女(日) 20代	しっかり話せた
20(4)	実際の例を見たときには、こんなに話せるかなと思いましたが、行ってみるとよく表現できました。	日文 3年	男(日) 20代	よく表現できた
11(2)	シェアリングを通して話す力をもっと伸ばしたいと思いました。なぜなら、相手を意識していても、自分が伝えたいことが相手にはちゃんと合って(→伝わって)ないことがあるからです。(時間が短いからかも)	交換	男(韓) 20代	伝わっていない
21(3)	また、相手の話の感想を述べる時には、自分が話を聞いて感じたこと、考えたことをうまく伝えることができたかどうか不安です。	日文 3年	女(日) 20代	伝える不安
27(3)	エクササイズは相手と1対1のペアワークで向いあっていたので、相手の状況を見ながら話ができ、とても充実したものとなりました。	日文 2年	女(日) 10代	相手意識

「伝える」に関する記述は6件得られた。20(1)からは、時間を意識しながら内容を整理して伝えられたこと、18(2)からはワークシートによって流れを作りしっかり話せたことが分かる。11(2)は相手を意識しながら話したが、伝わっていないこともあったため話す力をもっと伸ばしたいと述べている。シェアリングで気づきを話し合う中で、意味が正しく伝わっていないことに気づいたのであろう。スピーチは一般的には一方向のコミュニケーション行動になりがちであるが、シェアリングを行うことによってこのような気づきを得ている。21(3)が感じている不安は、相手を尊重するが故のもので、話す力を伸ばす動機づけになることを期待する。27(3)は「相手の状況を見ながら話ができ、とても充実したものとなりました」と述べている。

(15)

スピーチは1対多数で行うのが一般的であるが、本エクササイズのようにペアでスピーチし合う形は、固くならないでより聞き手の反応を確かめながら話すことができるという利点がある。

<表3> 「興味」 カテゴリー

(n = 4)

番号	データ	所属	属性	ラベル
15(1)	相手とは違う経験を持っているけど、気づいたことには共通点がいくつかあって、相手の話を興味深く聞きました。	交換	男(韓) 20代	興味深く聞いた
16(3)	でも、たとえばペアの2人同士が“18才のとき野球でライバルに勝った”という大きなくりで同じエピソードを話したとしても、互いに自分も同じような経験をしているからこそ、大きな興味をもってきくことができると思います。	交換	女(中) 20代	興味をもって聞く
17(1)	今日のエクササイズでは、相手の忘れられない経験には、素直にすごいと思い、もっとくわしくその話を聞きたいと思い、よく質問もできた。	英文 3年	女(日) 20代	質問できた
17(2)	自分の経験を話しているときは、相手が興味をもって聞いてくれたので、とても気持ちよく話すことができた。	英文 3年	女(日) 20代	興味をもって聞いてくれた

「興味」に関する記述は4件得られた。15(1)は相手の話に自分との共通点を見つけながら、興味深く聞いている。16(3)は前件で未知の分野のエピソードを聞く楽しさを述べているが、たとえ同じエピソードでも、同じ様な経験をしているからこそ大きな興味をもつことができるだろうと推測している。話に興味をもてば、17(1)のように質問も自然とでてくる。加えて17(2)は「相手が興味をもって聞いてくれたので、とても気持ちよく話すことができた」と述べている。聞き手の反応がスピーチに影響を与えていることが分かる。

7-2. 自己理解・他者理解について

参加者の自己理解、他者理解に関する自由記述データを、以下の<表4>「自己理解・他者理解」<表5>「共感的理解」<表6>「共通点」の各カテゴリーにまとめた。

<表4> 「自己理解・他者理解」 カテゴリー

(n = 7)

番号	データ	所属	属性	ラベル
02(1)	ふだん、あまり自分の一日や自分にとって忘れられない経験について考えたことはない。今回のSGEは自分分析のためになったという気がする。	交換	女(中) 20代	自分分析
08(4)	自分だけの特別な経験は何だろうと思って、今までの出来事ややったことを振り返ってみることもできました。	交換	男(韓) 20代	自己の振り返り
20(2)	また、相手の経験をきいたりすることで共通点などが見つかったりして、自己理解にもよいと思いました。	日文 3年	男(日) 20代	自己理解
01(1)	もともとは毎日楽しんでいたのですが、今はふと人生が重い感じがし始めました。やっぱり年をとったなあと。はじめての外国での生活で、今までの軽い感じはなくなります。すべて気にしなければ忘れられないことは前より何倍も増えてきて、なかなか前向きな経験を思い出せなかったのです。	東研 D1	女(中) 30代	前向きな経験を思い出せない

12(2)	思い出されるのはこまったとか、こわかったとか、つらかった経験だけで、うれしかったとか感動した経験はあまり思い出せなかったです。	交換	男(韓) 20代	否定的な思い出
20(3)	質問や感想の時間もあったので、相手のことについてより知ることができたと思います。	日文 3年	男(日) 20代	他者理解
07(2)	相手の体験を聞いた時、日本の文化を勉強します。	研究	女(中) 20代	文化の勉強

「自己理解・他者理解」に関する記述は7件得られた。02(1)、08(4)が述べているように本エクササイズでは過去の自分を振り返り、自分にとって大切な記憶を選んで話す過程で、自分自身と向き合うことになる。そこで自己理解が促される。20(2)は相手の経験を聞くことが自己理解にもよいと述べている。相手の話から今まで意識していなかった自分への気づきが得られたのであろう。01(1)は前向きな経験を思い出せなかったと述べ、12(2)は否定的な思い出ばかりで感動した経験をあまり思い出せなかったとしている。インストラクションではワークシートの指示文にあるように「できるだけプラスの(前向きな)経験を選んでください」と指示した。「忘れられない経験」というのは人それぞれで、指示通りに思い出せるわけではないが、それも自己理解につながると思われる。

20(3)、07(2)は他者理解に関する記述である。質問や感想の時間が他者理解の促進に役立ったこと、相手の体験を聞くことで異文化理解が進んだことが分かる。

<表5> 「共感的理解」 カテゴリー

(n=5)

番号	データ	所属	属性	ラベル
08(1)	相手の話し(→話)を聞いて、自分の経験を思い出しました。同じような経験があったことに気がきました。相手を感じたことについてもすごく共感することができました。	交換	男(韓) 20代	共感
24(1)	相手の話も「クラスで1つのことに取り組む」ものだったため、偶然とはいえ親近感がわきました。	日文 3年	女(日) 20代	親近感
25(1)	同じような話題だったので、共通点など多かったです。同じような場面で似たような感想を持っていたので、皆そう思っているのかなと思いました。	欧文 3年	女(日) 20代	似たような感想
19(1)	私たちのペアは、全く感じの違う経験について話したのですが、聞いているうちに、自分もそんな経験をしたことがある気がすると思いつくことができました。	英文 3年	女(日) 20代	同じような経験
21(2)	相手の話を聞いているうちに、自分も同じような経験をしていたことを思い出しました。	日文 3年	女(日) 20代	同じような経験

「共感的理解」に関する記述は5件得られた。08(1)、24(1)、25(1)のように、人は互いの中に似たような経験、似たような感情を見出した時、相手に共感したり親近感を感じたりする。19(1)、21(2)も「自分も同じことがあったな」という思いをもつことで、相手を共感的に理解したと思われる。共感が大きくなるにつれて、相手との心的距離は縮まり、話の内容や話し方にも変化が起こってくる。さらに、異質な考えや意見の交流が可能になってくる。

<表6> 「共通点」 カテゴリー

(n = 13)

番号	データ	所属	属性	ラベル
05(1)	二人の経験が違うけど共通点があります。一つ目は二人とも今に影響していることを話しました。二つ目は忘れられない経験がイベントに関することです。	研究	女(中) 20代	イベント
13(1)	〇〇が言ったとおりで、私たちはまだ若いので、シェアすることもほぼ学校とか努力についての話し(→話)だけど、私たちのグループは違って、兩人とも自分の入院したことや家族の人は(→が)病気になる(→なった)ことから、初めて、家族との絆や大切さを(→に)気付いてた。ちょっと重い話だったが、もっと確信できるようになりました。	交換	女(台) 20代	病気と家族の絆
11(1)	自分として忘れられない経験というのは確かに話題が違うのに間違いないと思いました。しかし、私たちのペアは人の大切さというところで共通点が出てきた。	交換	男(韓) 20代	人の大切さ
24(2)	経験した時の年齢も取り組んだ内容も違いますが、「自分の同級生と力を合わせて1つのことを目指し活動する」という点は非常に似ており、仲間の大切さやコミュニケーションの重要性を感じたという点も共通して抱いた考えでした。	日文 3年	女(日) 20代	仲間・コミュニケーションの大切さ
06(1)	共通点というと、自分と相手とはこういう忘れられない経験から、自分の人生の道や自分の考え方をええたり、人生に新しい経験があったりすることがありました。	人研 M1	男(中) 20代	変化のきっかけ
28(3)	ペアでシェアリングした時に見つけた共通点は、自分が努力したり、周囲もまきこんで良い方向にもっていかれたり、様々な感情を乗り越えて成長できたと思える経験が忘れられないものになるということ。	社会 2年	女(日) 20代	成長経験
22(1)	一見異なっている2つの経験から共通点を見出すためには、相手の話を抽象化して自分の話と比較する必要がある、そのためには自分自身に状況に応じて臨機応変に対応する力がないと難しいかもしれないと思った。	欧文 3年	男(日) 20代	共通点の見つけ方
15(2)	そして、いろいろな経験があれば、もっと多くの人との共通点作りもできるだろうと思いました。	交換	男(韓) 20代	共通点作り
23(1)	シェアリングをする時に、「共通点はないかという視点を取り入れて話せ」と指示した点は、一見別々の話でも似ている所が見付かるきっかけとなるため、良かったと感じました。	英文 3年	女(日) 20代	指示がよかった

(以下4件省略)

「共通点」に関する記述は13件得られた。05(1)、13(1)は、話題やそこからの気づきに共通点を見出している。11(1)以下4件の記述からは、互いの経験は違うが、経験の中で感じたこと、経験の影響、忘れられない理由など、様々な相手との共通した考えを見出しながら相互理解を深めていることが分かる。22(1)は共通点の見つけ方として「相手の話を抽象化して自分の話と比較する必要がある、そのためには自分自身に状況に応じて臨機応変に対応する力がないと難しい」と述べている。これは談話能力に関する視点である。会話の中に共通点を見つけ、話題を転換したり発展させることもできる。15(2)は経験の大切さに気づいている。豊富な経験は様々な人との話題づくりに役立つ。23(1)はリーダーがシェアリングの際「お互いの経験の中に何か共通点はないだろうか」という視点を与えたことについての反応である。

7-3. 気づき・感想・願望について

参加者の気づき、感想、願望に関する自由記述データを、以下の〈表7〉「気づき・感想・願望」カテゴリーにまとめた。

〈表7〉「気づき・感想・願望」カテゴリー

(n = 18)

番号	データ	所属	属性	ラベル
02(2)	ふだんの生活の中で、機械的に動くのではなく、活動から何(か)を学ぼうとする意識を持たなければならない。	交換	女(中) 20代	学ぶ意識
10(2)	忘れられない経験と言われたら、やはり楽しかった経験を思い出す。でも、その経験で何を得たのかがよく分からなかった。失敗した経験こそ得ることが多いだろうと思った。	交換	女(韓) 20代	失敗経験から得る
26(4)	あと、つらい経験の方が多いかもかもしれないという話もしたが、それはおもしろいであって、前向きに得たものは、やはりプラスの経験に多いなと思った。	社会 2年	女(日) 20代	プラス経験から得る
09(1)	今日も忘れられない経験をしました。交差点と共通点 恥ずかしい。でも、こんな会話が楽しいです。手伝って下さってありがとうございます。	交換	男(韓) 20代	楽しい
16(2)	今回のように自分にとって未知な分野のエピソードをきくことは、イメージをふくらませ感情移入することが楽しめる活動だと思います。	交換	女(中) 20代	楽しめる活動
23(2)	このエクササイズは、忘れられない経験つまり、相手の人生の中で一番印象に残っている出来事なので、聞いていて楽しかったですし、他の人の話も聞いてみたいと思いました。だから、グループ等でやってみてもいいかなと考えました。	英文 3年	女(日) 20代	楽しかった
06(3)	相手とこのような貴重な経験をシェアリングすることができて大変嬉しいと思っています。	人研 M1	男(中) 20代	嬉しい
18(3)	共通点は見つけられなかったけど、相手の話からも自分の話からも新発見があって、面白かった。	日文 3年	女(日) 20代	面白い
12(1)	忘れられない経験ということがあまりないらしくて少しかなしかったです。	交換	男(韓) 20代	悲しかった
12(3)	これからはいい思い出をつくるためにもっとたのしくいきようと思いました。	交換	男(韓) 20代	楽しく生きよう
28(4)	大学生活の中でも忘れられない経験を積極的に行いたい。	社会 2年	女(日) 20代	積極的に行動

(以下7件省略)

「気づき・感想・願望」に関する記述は18件得られた。02(2)が述べているように日常の様々な経験をただやり過ごすのではなく、時には「自分はそこから何を学んだのか」と問いかけ、自分と向き合う時間をもつことは大切なことである。とかく「自分は話題が少ない」と考えがちであるが、上記のような時間をもつことで、「話題」は増えていくと考えられる。10(2)と26(4)は相反する意見である。一方は失敗した経験から得るものが多いと感じ、一方はプラス経験から得るものが多いと感じている。このような異質な考えや意見が出されると、それぞれがもつ価値観の多様性を認識する機会となる。

09(1)の「今日も忘れられない経験をしました。交差点と共通点 恥ずかしい」というのは、言い間違えて恥ずかしかったが、それによって今日が忘れられない日になったという参加者の

人柄によるユーモアである。16(2)の「未知な分野のエピソード」、18(3)の「相手の話からも自分の話からも新発見」という記述からは、本エクササイズが未知の話聞く楽しさに加え、自己と他者発見の楽しさもあることが分かる。また、23(2)は、「相手の人生の中で一番印象に残っている出来事なので、聞いていて楽しかった」、06(3)は「貴重な経験をシェアリングすることができて大変嬉しい」と述べている。本エクササイズのテーマ「忘れられない経験」というのは、お互いの心の深い部分に触れることになり、参加者はSGEのもつ「心とこころのふれあい」の楽しさを味わっていると言える。それにより、23(2)は「他の人の話も聞いてみたい」「グループ等でやってみてもいい」と述べ、さらなるコミュニケーションへの願望、話すことへの動機づけになっている。

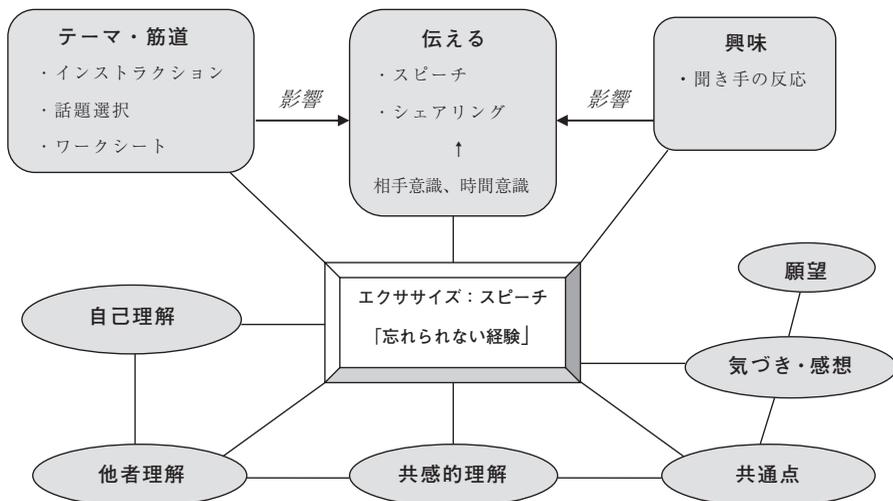
12(1)は忘れられない経験があまりない自分が悲しいという感想を述べているが、12(3)では「これからはいい思い出をつくるためにもっとたのしくいきしてみよう」とあり、願望につながっていることが分かる。林(2011:3)は「SGEの目標は、『ふれあい』と『自己発見』を通しての参加者の『行動変容』『人間的成長』(personal-growth)にある」としている。

7-4. その他

その他の自由記述が3件得られたが、紙幅の都合上ここでは省略する。

8. カテゴリーの関連付け

各カテゴリーの関連を以下の<図2>に示す。上段の角内の太字はコミュニケーション活動に関するカテゴリー名、下段の丸内の太字は参加者の意識・感情等に関するカテゴリー名、細字はカテゴリーに関するキーワード、斜体はカテゴリーの関係を表す。



<図2>カテゴリーの関連

「テーマ・筋道」の具体的内容としては、インストラクション、話題選択、話す内容のワークシートへの整理などである。「伝える」というのは、相手意識、時間意識をもってスピーチを行ったり、事後のシェアリングをしたりすることである。「興味」は、うなずきや微笑みなど参加者がスピーチ中に行った非言語メッセージや、スピーチ後の質問・感想などの聞き手の反応である。「テーマ・筋道」や「興味」は「伝える」に影響を及ぼし、スピーチが形成されている。

また、エクササイズを通して参加者の中に生じた意識・感情等の各カテゴリーも互いに関連し合っている。参加者はスピーチやシェアリングを通して、「自己理解」や「他者理解」を進めている。林 (2011:21) は「自己理解・自己受容ができていないと他者理解・他者受容が難しいとの認識が必要である」と述べている。「他者理解」は「共感的理解」につながる。さらに、シェアリングを通して話し合った「共通点」によって「共感的理解」は深まっていったと思われる。参加者の具体的な感情として、互いの違いや自己の行動等への「気づき」、エクササイズへの「感想」がある。そこから、さらなるコミュニケーション、行動変容への「願望」も生まれている。

9. まとめと今後の課題

量的評価において、日本人、留学生ともに「楽しい」「積極的」「役立つ」の3項目が高い評価値を得た。この結果から、本エクササイズは話すことを楽しみながら話す力を育てることに於いて評価できると考えられる。最下位項目は日本人、留学生ともに「筋道」であった。

自由記述を分析すると、量的評価の背景が見えてきた。「楽しさ」の要因は、まず、スピーチを聞くことにあった。参加者は相手の「忘れられない経験」に興味をもって聞いた。また、伝える方も興味をもって聞いてもらえることで、気持ちよく伝えられたとしている。さらに、スピーチを通して自己と他者発見の楽しさ、経験や感情を共有することの楽しさを感じていることが示された。テーマであった「忘れられない経験」は、自己を見つめながら他者と感情交流ができ、自己理解と他者理解というコミュニケーションの楽しさを味わえるテーマであると思われる。「筋道」については、参加者は話題選択に時間をかけ、筋道を十分に考える時間的余裕がなかったことが分かった。しかし、筋道を意識し、必要性を実感している記述も得られた。

また、ペアでのスピーチのメリットもあげられた。話し手は聞き手の反応を見ながらあまり固くならないで話ができ、質問やシェアリングの時間には、理解されていなかった発話に気づいたり、意欲的に質問や感想を述べ合うことができていた。シェアリングはSGEで最も重視されており、参加者間のインターアクション (interaction) の場となる。スピーチの練習として、本エクササイズのようなペア・ワーク形式を応用していく価値は十分あると考えられる。

以上から、話すことに関する本エクササイズの効果として以下の4点が考えられる。

- ①自己に関する話題を広げることができる。
- ②筋道を立てて話すことを意識化できる。
- ③相手に質問したり、相手の話の内容に感想を述べたりする練習ができる。
- ④参加者の感情交流を促し、相互理解というコミュニケーションの楽しさを味わうことができる。

改善点は、事前にスピーチテーマを知らせておき、話題選択に時間がかからないようにすることである。今後は、本エクササイズのようなペア・ワーク形式から本来の「1対多数」というスピーチの形式へと発展させていく授業デザインを検討し、実践研究を続けていきたい。

【参考文献】

- 岡崎敏雄・岡崎眸（1990）『日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ』凡人社
- 木田真理・小玉安恵・長坂水晶（2007）『話すことを教える』ひつじ書房
- 黄潔（2012a）「話すことに関する構成的グループ・エンカウターの実践研究」『エンカウター研究』第5号、山口県教育カウンセラー協会、pp.1-100
- 黄潔（2012b）「話すことに関する構成的グループ・エンカウターの実践－要約と時間配分について－」『教育学研究紀要（CD-ROM版）』第57号、中国四国教育学会、pp.179-184
- 國分康孝（1981）『エンカウター 心とこころのふれあい』誠信書房
- 戈木クレイグヒル滋子（2008）『質的研究方法ゼミナール増補版 グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ』医学書院
- 林伸一（2011）「教育カウンセラー養成のための構成的グループ・エンカウター」『山口大学文学会志』第61巻、山口大学文学会、pp.1-24
- 森泉朋子（2001）「忘れられない経験」林伸一・飯野哲朗（編）『エンカウターで学級が変わる・ショートエクササイズ集Paret2』第3章、図書文化、pp.80-81

（さかい・さとみ）

<別添資料> エクササイズ：スピーチ「忘れられない経験」 ワークシート

氏名： _____

◆このワークシートに記入しながら話す内容を整理してみましょう。できるだけプラスの（前向きな）経験を選んでください。

①何歳のときのこと？

②具体的どんな経験？

③その経験から感じたことは？

④その経験で気付いたことや得たことは？

⑤その経験が現在の自分に与えている影響は？

⑥その他